

## 第 1 回 大田区基本構想審議会第 3 部会 議事要旨

日時	平成 19 年 10 月 19 日 (火) 午後 6 時 ~ 8 時
会場	大田区役所 202 会議室
出席者	伊藤委員 (部会長)、田中委員 (部会長代理)、熊倉委員、中島委員、 奈須委員 (五十音順)

### 1. 開会

### 2. 部会長挨拶

### 3. 委員の紹介

- ・ 銀行でシステム開発をした後、中堅シンクタンクで 15 年ほど行政に関わる調査研究を担当してきた。国や都道府県関連の案件が多かったので地域のことをあまりよく分かっていない。大田区で生まれ育ったが、どんなところが住みやすいかをあまり意識せずに住んでいる。このまちを再認識するきっかけになるのではないかと考えている。こんな風な大田区であればいいなという期待をこめて参加させていただく。
- ・ 基本構想は一番上位の計画。これからは地域力をとらえ、委員として貢献できればと思っている。
- ・ 町会・自治会の責任者としてやっている。地域のことは色々と経験している。町会・自治会の歴史は長く、区政は還暦を迎えた。地域ではほとんどのことを網羅しているが、これからは縦割の旧体制から横の連携と協働でやるのがベターだと考えている。
- ・ 自治体の憲法としても位置づけられる構想のメンバーとして議論ができることを光栄に思う。第 3 部会については、人と人のつながり、温暖化の問題など、大切なのに何をしたらよいかについて解決策の決め手がない状況にある中で、この場で私たちが何をすべきかを明確にするためにも理念をしっかりと共有できればよいと思う。
- ・ 大学では行政制度や機構などについて教えているが、自治体と地域の関係について実地の経験が求められていると思う。第 3 部会はテーマが幅広いが、将来のビジョンに向けてイメージを共有し、円滑かつ闊達に進めて参りたい。少人数の部会なのでどんどん自由にご発言をいただきたい。

### 4. 専門部会長代理の指名

(伊藤部会長により、田中部員が部会長代理に指名され、了承された。)

## 5．庁内検討委員会第2作業部会長紹介

## 6．審議の進め方

- ・ ホームページへの掲載はどのタイミングで行うか。  
(事務局)委員の皆様のご了解をとれた後ただちに行う。具体的な時期については、皆様からの確認が取れた後ということではいつという決めはない。  
(部会長)できるだけ速やかに公表していただく。そのために我々も速やかに確認するというようお願いしたい。

## 7．専門部会の議題と工程について

- ・ 基本計画についての位置づけが明確ではないように思う。どこまでこの会が関わるのか。基本構想の理念的な部分をさわって、計画については後に委ねるという構成になっているように思うが、理念の実現のために盛り込まなければならないことを議論しなければ、基本計画に関わったことにならないと思う。

(事務局)第2回審議会の際に基本計画構成のイメージをご審議いただき了承をいただいた。11月22日に施策体系をご審議いただく予定であり、これは基本計画に大きく反映をさせていただく部分だと思う。

(部会長)今回は我々としての考えを打ち出すが、原案というほど具体的なことを検討できるわけではない。我々としては、方向性やより大きな考え方を提示するということがよいのではないか。出した意見すべてが文言として取り入れられるものではないが、その方向性は取り入れられるということではよいのではないか。

## 8．配布資料の説明

## 9．審議

### (1) 地域力の定義・イメージ

- ・ ソーシャル・キャピタルは社会科学の中では注目を浴びている。規範が強い社会はパフォーマンスが高いと言われている。
- ・ 地域の担い手について危惧を感じている。これからの人には、今の高齢者のような状態のことは考えにくい。どのような方法を取ったら人が育つのかということを議論しなければならず、連携と協働の必要性がある。担い手が高齢化している。これまでは学校PTA、幼稚園、青少年対策委員会、警察、消防など、色々なところと連携を取りながらやっているが、担いきれないというのも事実。たとえば回覧は多岐にわたる。次の世代に交代するとき形をつくらないと、今の自治会の組織では継承されない。平成14年、15年くらいに、区と区民活動の連携と協働「おおたパートナーシップ会議」を発足さ

せたが、その後の行政にそれが全然反映されていない。当時の構想としては非常によいものができている。それをもう一度見直していただきたい。それをなぜ行政で継続したものができないのかが不満。行政がきちんとコーディネートしてくださる役割を果たしていただき、私たちと一体になって、次の世代の方にバトンタッチをするとよいものが生まれるだろうと思う。

- ・ 大田区では地域力が非常に働いている部分がある一方で、人材育成、次世代の育成が非常に問題。今までは高齢の方に負担を強いていた。それが継続できないと、地域力は低下することになる。行政との関係では継続性が重要。
- ・ 現実に地域力の中核を担っている一番大事な人たちの悲鳴だと思う。どうすれば継続していけるのか、というのが大切。団体の中には法人格を持っているところが増えてきているが、町会・自治会の法人格を持つ中で、経済的な支援も考えないと難しいのではないか。
- ・ 町会・自治会の位置づけが制度的にきちんと担保されておらず、純粹にボランティアで動いている。組織に入りやすい状況をつくるには、まず位置づけと責任、きちんとした保障が必要。若い人が見て、これならやれると一目瞭然になるよう位置づけをはっきりさせるべき。責任はあるのに保障がないというのが現状。そこをしっかりやらないと後世に引き継げない。
- ・ 町会・自治会がどのような活動をして、どこまでのことができ、行政とどのような関係かということなど、透明性を図ることが必要。
- ・ 近所の婦人会の会長に活動内容を教えていただいたが、本当にたくさんのことをなさっていて驚いた。私はサラリーマンをしており地域のことは関係なかったので知らなかった。回覧板がまわってくるが、家にいる時間がほとんどない。会社に行くときインターネットが見られるので、例えば回覧版をインターネットで見ることができれば、職場の昼休みに見ることができ、地域に目を向けるきっかけになると思う。後継者の問題も重要。世話を焼いてくれる人がいてくれる間は安心していましたが、高齢化する中で足腰が悪くなってできなくなってくる。次の後継者は 60 代の団塊世代を考えているかも知れないが、もっと若い人が入るような仕組みを作れるようにならないといけない。生まれた子どもからお年寄りまで、早い時期から自治会でどんなことがされているのかに興味を持てるようになればいい。学校教育でも自治会のことを知る機会を持たばよいのではないか。
- ・ 町内会を中心に活動のイメージを膨らませているが、NPO など町内会とは違う形で活動している人たちもいるが、自治会とうまくつながっていないという問題もあるのでは。NPO やボランティアなどとのネットワークする力も地域力ではないか。
- ・ 必要なのは防犯、防災、子育てなど、いざという時のこと。地域と関わっていないので、困ったことが起きたときに愕然とすることがあるように思う。今の組織を継続することの重要性を感じる。お金を稼がないといけない人た

ちの目を地域に向けようというのは難しい。仕組みで解決する部分と、ライフスタイルを見直すことを考えること。町会・自治会の維持と一緒に、NPOや市民活動団体がとても大切で、いかにそれをソーシャル・キャピタルとしてつくっていけるかが重要。介護保険の場面では地域包括支援センターでは社会的資源を洗い出して活用するということが目的としてうたわれている。自治会とも連携できるような仕組みが今後の課題になる。

- ・ 大田区民としてこれからの生き方を含めて議論してもよいテーマかと思う。潜在的には色々な場所、様々な技術をもった人がいると思うが、こういったことの発掘が大切。
- ・ 若い人は働かないといけないので、組織を構成する方の半分以上がボランティアでもよい。忙しくても余暇を割いてボランティアをする意識を高めていただきたい。ボランティアをできる状態の人が参加できるような仕組みが必要。「できる状態」がどういうことなのかを示していくことが大切。
- ・ 継続を図るためには町内会だけでは無理。行政がそこに出て行くということが重要になっている。それぞれの団体や個人がどれくらいの力を持っているかを直視しなければいけない。そうでないと負担が大きくなりすぎて地域の力がなくなってしまう。
- ・ 地域には色々な団体があるが、横にイメージしながら基本計画の策定をしていただきたい。消防団、PTA、神社、防犯グループなどもある。町会との連携なども視野に入れて色々な作業をしている。
- ・ 行政が税金を使ってやるべき部分と、市民が自分でやる部分、行政がサポートする部分について共通の理念がない。本来はお金を払ってでも維持しなければならないことを自治会がボランティアでやっていたり、お金を払わなくてよいところで、行政が補助を出したりしている。どこまでを自分たちでやるのが曖昧。みんなが納得できるものがないから、負担感が大きくなるのではないか。抽象的ではあるが、区政体制とも関わる非常に重要なところだと思う。小さな政府の考え方がある状況では、そこをきちんとおさえないとばらばらになってしまう。
- ・ 「新しい公共」という考えがあるが、行政がやらないと地域がもたないというところもある。無駄は切り詰めて行政にとって真に必要なことを責任をもってやっていただきたい。こうした基本的な考え方は共有できるのではないか。
- ・ 町会・自治会の現状と課題についての資料を提示するので、それをもとに議論するのはどうか。
- ・ 第3回以降のまとめのときに資料を出していただくとして、事務局でも資料の作成は協力いただきたい。地域が持っている力は抽象的だが、つきつめれば個人が持っている力。20年後の大田区の地域を考えると、高齢者の数が増えていく中でどのように対応するか。ケアする能力、防災のときの対応、危

機管理のあり方も課題になる。

- ・ 商店街が地域力に入るのか。個人商店があったまちに大手スーパーが来て、個人商店とうまくいっている。お祭りが増えてきている。自治会とは違った地域力が出てきている。商店街でも何か使えるものがあるのではないかと感じている。
- ・ 商店街と自治会は一線を画しているという感じがしている。職住一体の小さな町工場が多いので、自営業として町会に大変協力してくれるが、商店の方は工場の方よりも距離がある感じ。
- ・ 商店や企業も社会資源としてとらえたい。地域特性は地域力を語る上では必要。羽田でのアジアの国際便の就航ということで、アジアの人がたくさん住むという可能性もある。労働力として受け入れていく方向性はある程度できていると考えたときに、地域がどのように受け入れるのが大切。
- ・ 地域でも防災訓練のときに外国人に入ってもらおうと思ったが、まちに何人いるかが把握できない。行政に頼んで人数を把握するのではなく、本来は地域でやろうとしているがまだできていない。地域が接してあげなければなじんでこない。いざというときかわいそう。プライバシーも大切だが、それでは何も育たない。
- ・ 香港に住んでいたが、地域の人には大変お世話になった。知らない国では不安になるが、受け入れてもらうかどうかでその国のイメージにもつながる。
- ・ 外国人の方をお祭りや盆踊り、防災訓練など、なるべく地域のイベントにお誘いしている。日本人と同居しているケースがとても増えている。
- ・ 色々な企業、団体との連携もあるということは頭に入れておいていただきたい。

## 2. 地域の宝を活かした魅力づくり

- ・ 大田区は工場のまち、ものづくりのまちで零細の企業が多いが、職住接近があり、これは地域の宝だと思う。これまでの大田区は地域のビジョンがあまり打ち出されていなかったために、経済的な状況によってまちが変わることについて対策がなされていない。まちづくりにおいて一定の網掛けなどが必要ではないか。
- ・ 昼夜間人口比率が1に近いのは理想の形である。職住接近という意味では暮らしそのものが大田区の宝の一つ。それをサポートできる地域を考えていく必要がある。働きやすい、暮らしやすいことをサポートできることが大切。
- ・ 六郷用水は昔飲み水として飲んでいた。それはいいまでに確保されている。本門寺の周囲にお寺がたくさんある。それらには非常に古い歴史がある。こういう文化があることを皆さんにお知らせすべき。準工業地帯は振動などの公害を出しているの、近所の人には被害があるのでは。
- ・ 20年よりもっと先のビジョンのあり方として職住接近やものづくりのまち

を生かしたことをしつつ、回りの環境にも配慮することが大切。

- ・ 屋敷林が多い街並みがある。物納で公園になるとき、景観が変わってしまつて残念に感じるときもある。自然が残っているところは補助金などを出して景観を維持していくべきではないか。
- ・ 地域力を生かすためには行政のサポートが必要であり、地域の宝を持続されるためにも、暮らしの問題、まちづくりの問題、長期的には国際化もにらんで多様化の中での連携が核心になるのではないかと思う。「力」とはつなく、ネットワークすることが源になっていく、それが今は寸断されつつあり、そこが行政として重要な課題。3 回目の区政体制でも議論をしてみたい。
- ・ 本当に重要なのは行政のあり方。きちんと役割を果たしていただきたい。区内 18 のブロックに出張所がある。数年前、4 つの行政センターができた。それぞれをもっと活用すべき。行政は力があるのに、職員の異動で継承されないのが残念。以前は議会と町会は相当密接だった。地域の要望などを、地域選出の議員で討議する場が必要。議会でもぜひやっていただきたい。
- ・ 六郷地域には自民党の議員がないので、少し特殊な事情もあると思うが、議員をうまく使っていただきたい。地域の宝として、羽田空港、公共施設などを地域力に関わっていくと思うので、その辺も視野に入れていただきたい。

#### 9 . 次回以降の予定

- ・ キーワードを整理して、今日の議論を次回以降にも活用できるようにしたい。

以上